



環境政策の先進自治体をめざして、  
町ぐるみで取り組んでいきたい

開成町長 府川 裕一



コロナ禍は、地域の事業者が強くなるチャンス。今こそ信用金庫が力を発揮する時

さがみ信用金庫 理事長 遠藤 康弘

1956年生まれ。1978年小田原信用金庫（合併によりさがみ信用金庫に名称変更）に入庫。以後、鴨宮支店長・本店長などを歴任。常務理事・専務理事を経て、2021年6月理事長に就任。上延沢在住。

遠藤 それぞれの事業者の強

府川 成功体験が職員の自信になり、サービスの向上につながっていくという好循環ですね。町職員の人材育成でも同じことが言えると思います。経済の状況は少し落ち着いてきたようですが、現在の支援状況についても教えてください。

外部の方からお褒めの言葉をいただくという経験は、職員の成長にとっても重要です。理事長の私が褒めるより、よほど効果がある（笑）

今回のほど、信金の存在価値を認識していただいたことはないと思います。実際にそのようなお声をかけていただくときは、本当にうれしいですね。

遠藤 約100年後の今、前例のないパンデミックの最中に

府川 いざという時に「頼れる・頼ってもらえる」という関係性は大切です。町では、災害時に隣近所の方同士が助け合える土壌が必要なので、町では自治会活動の活性化に力を入れています。

遠藤 「相互扶助」ですね。信金の基本的な精神でもあり、通じるものがあります。信金は、関東大震災で疲弊した地域の中小零細企業を救うという趣旨のもと設立されました。

み・弱みを分析した「カルテ」を作成し、ビジネスマッチングや後継者確保などのサポートに力を入れています。お金の貸出しと違って、直接的な利益はありません。しかし、このコロナ禍は、地域の事業者の皆様が強くなっていたり、チャンスでもあります。私たちの願いは、地域の事業者に強靱な「体力」をつけていただくこと。そして、「何かあったら信金に相談」と思ってもらえれば幸いです。

2022\* 新春\*対談  
「未来に向けた地域づくり」



GUEST

さがみ信用金庫  
理事長 遠藤

えんどう

やすひろ

町や県西地域のこれらについて、町民で、昨年6月にさがみ信用金庫（以下「信金」）の理事長に就任した遠藤康弘さんにお話を伺いました。

企画政策課 84-10312

府川 町長 理事長は、町の様子もよくご存じだと思いますが、町との縁や印象について教えてください。

遠藤 生まれが開成町で、結婚を機に帰ってきて、もう30年以上経ちます。最近では、コロナ禍で土日に散歩することが増え、そこで感じたのが、小さく平らな町の中にも、季節の移り変わりがあるということ。新たなまちづくりが進んでいる一方、農作物の成長やあじさい農道の景色を眺めていると、豊かな自然が残っていると、改めて気づきましたね。

また、外を歩くと、近所の皆さんが話しかけてくれ、良いコミュニケーションのきっかけにもなっています。

府川 地域とのコミュニケーション

遠藤 コロナ禍の初期は、多

その信金の話になりますが、コロナ禍で中小企業をサポートする立場として、現状や取り組みをお聞かせください。

